

全 社環境マスタープランの進捗状況

日本化薬では、次の3項目の環境数値目標を定め、マスタープランに沿って活動を進めています。

	中期環境目標	現在までの取り組み
1 化学物質の環境排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年度には、VOC(揮発性有機化学物質)の大気への排出量を2000年度比で50%削減して70トン以下とする。(2005年4月新設) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品製造工程で1品目を残して溶媒変更によるジクロロメタンの使用廃止 ● カーボン繊維を用いた吸収塔によるジクロロメタンの回収 ● 減圧ポンプ排ガス中のジクロロメタンの凝縮器設置による回収 ● 排ガス処理装置の導入
2 廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年度には、廃棄物発生量の増加を1996年度比でゼロに抑制する。 ● 2010年度には、埋立て廃棄物量を1996年度比で60%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物焼却炉の設置 ● 焼却残渣の再資源化 ● 高圧ベルトプレスによる汚泥脱水率の向上 ● 分別の徹底による再利用、再資源化 ● 工程廃液の発生抑制 ● 場内焼却対象物の拡大による埋立て廃棄物の削減
3 地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年度には、エネルギー起源二酸化炭素排出量を1990年度比で8.6%削減する。(2005年4月改正) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷暖房、照明管理による使用エネルギーの削減 ● 反応条件の最適化による使用エネルギーの削減 ● 冷却媒体温度の最適化による使用エネルギーの削減 ● 蒸気背圧を利用した発電 ● 省エネルギー型ボイラーの導入 ● 保守・点検による蒸気送気ロスの削減 ● 熱交換器の熱交換効率の向上 ● コージェネレーション(熱併給発電)システムの導入 ● 蒸気エジェクターの真空ポンプへの転換 ● 都市ガスボイラーの導入



排ガス処理装置(1996)



カーボン繊維を用いた吸収塔(1997)



固形焼却炉(1997)



コージェネレーションシステム(2003)

2006年度の取り組み	2006年度の結果	今後の取り組み計画	記載ページ
<ul style="list-style-type: none"> ●2005年度末に福山工場に導入した排ガス処理装置を適正に運転、および濾過工程の密閉設備への変更を行いました。 	<p>VOCの排出量は、2005年度より約8トン減の62トンとなりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●厚狭工場に排ガス処理装置の増設(2007年度) 	<p>p.26</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、廃棄物の分別を行ない、再資源化を推進しました。 	<p>廃棄物発生量は、1996年度比で30%削減、埋立て廃棄物量で81%削減と2010年度の目標を達成しています。ただし、景気回復に伴う生産の回復あるいは増加に伴い、廃棄物の発生量の増加が見込まれています。引き続き削減対策を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の再資源化の推進 ●工程廃液からの溶媒分離、回収 ●工程廃液の処理検討 ●工程改善による廃棄物発生量の削減 	<p>p.30</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●2005年度の高崎工場に引き続き、福山工場のボイラー燃料をA重油から二酸化炭素排出量の少ない都市ガスに転換しました。 ●厚狭工場に小型省エネルギー型ボイラーを導入しました。 ●東京工場に高効率スクリーウ冷水機を導入しました。 ●統合研究棟に氷蓄熱ユニットを設置しました。 	<p>エネルギー起源の二酸化炭素排出量は、1990年度比で17.6%削減となっています。ただし、景気回復に伴う生産の回復あるいは増加に伴い、エネルギー省消費量、二酸化炭素排出量の増加が見込まれています。引き続き二酸化炭素の排出量抑制に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●インバーター機器の導入 ●省エネルギー型冷凍機の導入 ●風力、太陽光等再生型エネルギーの活用検討 ●高効率受電設備への更新 ●燃料転換 ●コージェネレーションの導入 	<p>p.32</p>



排ガス処理装置(2004)



都市ガスボイラー(2005)



排ガス処理装置(2006)



省エネルギーボイラー(2006)